

第 22 回総合治水ワーキングチーム会議の協議結果

日 時 平成 18 年 2 月 8 日 (水) 13:30 ~ 18:45

場 所 西宮市大学交流センター

出席者 (委員) 松本(誠)、奥西、川谷、畑、村岡、長峯、岡田、加藤、佐々木、
田村、中川、法西、伊藤、草薙、酒井、谷田、土谷、山仲
(河川管理者) 田中、渡邊、松本、前川、西村、合田
(農林水産部) 福田、鶴崎 (河川整備課) 糟谷 (公園緑地課) 橋
(公園都市整備課) 松村
(事務局) 黒田、前田、植田、木本

内 容(協議結果)

1 総合治水対策の検討

(1) 基本高水ピーク流量の分担に関する協議の進め方

基本高水ピーク流量を分担する各対策(「河道対策(河川改修)」、「流域対策」、「貯留施設」)について、これまでの協議を踏まえ、検討手順及び評価項目等を整理し、再確認した。

(2) 流域対策の検討(基本方針レベル)

前回WT会議で持ち越しとした「遊水地の候補地試算例の再精査」、「公園、学校の効果量再試算(オリフィス規模の変更)」及び「ため池の規模(満水面積等)別分布状況」について、河川管理者から説明があり、協議した結果、次の事項を確認した。

- ・ 遊水地(農地活用)については、相野川合流点より上流の沿川、相野川合流点より下流の本川、支川沿川の箇所を検討箇所(候補地)として、効果量を試算する。
- ・ 遊水地(河川施設および公共施設等活用)については、これまでに挙げられた候補地を整理しながら、河道対策、流域対策の検討状況を踏まえて、その上で検討する。
- ・ 学校については、青野ダム流域以外の全ての学校を対象とする。なお、効果量はオフサイト貯留を前提に試算する。
- ・ 公園については、青野ダム流域内の公園や河川区域内の公園を除外する等の条件を満たした公園を対象とする。
なお、効果量については、オフサイト貯留(大規模な公園について、地形の状況からオフサイト貯留が困難な場合については、オンサイト貯留)を行うものとして試算する。
- ・ ため池については、「青野ダム流域以外」、「満水面積5千㎡以上」、「流域面積千㎡以上」のため池を対象とし、水位を1m引き下げたときの効果量を試算する。
- ・ その他の流域対策(水田、防災調整池、各戸貯留等)については、継続協議とする。

これまでの検討状況(各対策の効果量(試算値)及びその前提条件)を、次回流域委員会(2月13日開催予定)に報告する。

2 その他

(1) 次回以降の会議の協議事項

河道計画

防災調整池の数値化

ため池、水田の数値化

遊水地（「結果として湛水地域」、「公共施設・都市施設」）の可能性及び数値化

利水ダムを活用

各戸貯留等の数値化

(2) 今後の日程（開催日時）

第23回 2月15日（水）13：30～

第24回 2月20日（月）13：30～

第25回 2月27日（月）14：00～